



難波っ子

平成29年度2月号
尼崎市立難波小学校
校長 東 政信

ならぬものはならぬ

あつという間に2月の声を聞くようになってしまいました。今年はおだやかなお正月を迎えましたが、先週は雪もちらついて寒さが戻ってきました。寒暖の差が激しく、体調管理が難しい時期です。例年通りインフルエンザが流行期に入り、本校だけでなく市内的にも学級閉鎖が広がっています。まだしばらく寒い日も続くようですので、引き続き健康管理には気をつけていただきたいと思います。

さて、「いじめ」による悲しいニュースが後を絶ちませんが、難波小学校でも「いじめ防止基本方針」を見直したり、アンケートを実施するなどいじめの未然防止について取り組みをしているところです。また、昨今、他の人の迷惑を顧みない自己中心的な言動や決まりごとを平気で破るなど、規範意識の低下が社会問題になっています。その原因としては、子ども自身に他者の視点に立って感情や考えを想像し共感する力が育っていないこと、「駄目なものは駄目」と教える大人が少なくなっていること、またモデルとなるべき大人の非常識な言動等々が考えられます。

いじめ防止を含め、規範意識を高める考え方の一つの参考として、「什(じゅう)の掟」(什は、会津藩の藩校『日新館』に入る前の藩士の子弟を教育するための組織)を紹介します。

- 一、年長者にはお辞儀をせねばなりませぬ
- 一、嘘言(うそ)を言うことはなりませぬ
- 一、卑怯(ひきょう)な振る舞いをしてはなりませぬ
- 一、弱い者をいじめてはなりませぬ
- 一、戸外でものを食べてはなりませぬ

ならぬものはならぬものです

今風に言い直せば、【年長者を敬い、礼儀をわきまなさい、嘘をついてはいけません、卑怯な言動はしてはいけません、弱い者いじめをしてはいけません、外で歩きながら食べてはいけません】そして「いけないことは何があってもどんなことでもいけないのです」ということであり、人として守らなければならない基本的なもののように思いますが、いかがでしょうか。会津藩の子どもたちは、「什の掟」を大人から言われてつくったわけではありません。子どもたちだけで掟をつくって実行していたのです。はじめに何かの基準がないと、何かを自主的に行っていくことは難しいということもあったようです。

今の時代、大人も子どもも、学校・家庭・地域でも「ならぬものはならぬものです」という精神、もう一度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。